

# 日本天文学会評議員会 議事録

日 時：1999年7月17日（土） 13時00分～16時00分

場 所：国立天文台 講義室

出席者：今井、尾崎、谷口、長谷川、古屋、井上、  
小山、鈴木、須藤、福江、福島、吉田  
出席者12名 欠席者 18名うち委任状7名。

他に理事会から庶務理事 大石、柴田、会計理事 立松、紀伊が出席

議事に先立ち、議長に長谷川哲夫氏を、署名人に鈴木尚孝氏、今井 裕氏を選出した。

## 議事の経過及び結果

1. 前回（1999年3月26日）の評議員会議事録が報告され、承認された。
2. 2000年度日本天文学会事業計画案について大石庶務理事より説明があり、質疑応答の後承認された。これに関連して各種委員会の内規案を評議員会以前に評議員に回覧するなどして十分な議論を行い、2000年7月までに結論を出す方向で作業を行うこととなった。
3. 2000年度日本天文学会収支予算案について立松会計理事より説明があった。  
2000年度には天文学会事務室の引越しが予定されているのでその費用（約30万円）を計上しておくこと、研究奨励賞および林忠四郎賞の賞金額については理事会が提示した額（それぞれ20万円、30万円）にすること、等を含め全会一致で承認された。なお、各賞を与える人数に関しては議論を継続することとなった。また、学術交流費については応募者が急増していることもあり運営方法を見直さなくてはならないため、収支状況の説明資料を次回評議員会に提出することが求められた。
4. 内地留学奨学金に関する内規の改訂について、理事会案が提出され、その内容を大石庶務理事が説明した。基本的な改訂趣旨は承認され、文言について微修正をすることで改訂内規が成立した。
5. 2001年および2002年の春・秋季年会開催地候補が大石庶務理事より下記のように提示された。

2001年春：千葉大学、 2001年秋：西はりま天文台

2002年春：茨城大学、 2002年秋：宮崎大学

これに関連して、最近の講演数の増加にどのように対応するか議論が行われたが、明確な結論は出なかった。年会実行委員会や庶務理事が中心となって具体案を検討する。

また、2000年春季年会で開催予定の「ジュニアセッション」の趣旨説明が行われたが、開催にあたっては様々な問題がある、また、資料を提示して説明して欲しいとの指摘があり、10月の評議員会で資料を示すと共に改めて説明することとなった。

6. 1997-1998年度に渡る会費未納者のリストが提示された。これは3月の評議員会からの積み残しであり、3月以降の督促努力の結果未納者は正会員12名、準会員10名に減少した。そしてこれら22名の除名が承認された。、なお、除名会員の未納会費は学会の債権として残り、督促を継続することが確認された。
7. その他

（1）原事務長が2000年12月末に定年になるが、その後任として東條新氏が内定したことが大石庶務理事より報告された。東條氏は2000年度中途から事務室に勤務していただく予定である。

（2）PASJの現状について大石庶務理事より報告があった。機関購読者数は291件にまで回復した。電子版PASJは今年中は無料公開する。今後「なんてん」特集号、及び、「すばる」特集号を組む予定である。これに関連して福江評議員より、「電子版原稿のためのスタイルファイルはUNIX版だけでなくWindows版のものも欲しい。圧縮は必要ない。また、パブリへの意見の窓口を公開して欲しい。」との意見が出された。また福島評議員から、「現在電子版の投稿料を半額にしているがいつまで半額にするのか。」という質問が出された。これに対し紀伊会計理事より、「現在検討中で、2000年1月に原案を提出する。」との回答がなされた。

（3）「すばる絵葉書」を発行する方針であることが大石庶務理事より報告された。

（4）古屋評議員より、アメリカ天文学会への参加報告があった。

（5）鈴木評議員より超巨大計画への参加・調査などを学会として行ってはどうかとの提案があったが、学会よりもむしろ天文学研究連絡会議へ提案するほうが良いとの結論になった。

議 長 長谷川哲夫

署名人 鈴木尚孝

署名人 今井 裕